

英語科の主張

1 教科で育みたい人間像

- 5 英語科では、外国語を学ぶことを通して「言葉で心通わせる人」を育みたいと考えている。
- 言葉を通したコミュニケーションは、心と心をつ結びつける人間らしい営みである。自分の思いを「伝えよう」としたり、相手の思いを「わかろう」としたりする時、自分の言語的・非言語的な力を最大限に生かして、創意工夫を凝らした言語的にも情意的にも豊かなコミュニケーションが展開される。また、そのようなコミュニケーションを重ねる中で、自らの思いを大切にしながら、相手の文化や価値観をわかろうとすることで、言語的・文化的背景の異なる他者と理解し合うための視野や考え方の幅を広げていこう。
- 10 「言葉で心通わせる人」は、先述したコミュニケーションの中で、自らが紡ぎだす言葉を通して自分と相手との心の距離が縮まっていく実感や、つながりあう実感に価値を感じながら、人と向き合い続ける人である。
- これから出会う多様な文化・価値観をもった人々と真摯に向き合い、自らの言葉で理解し合うことで、世界や人々とのつながりを豊かにしながら、それぞれの未来を広大なフィールドの中で切り拓いていくことを願っている。
- 15

2 教科で願う学び

- 20 英語科が願う学びは、**英語を通して心通わせるかかわりを積み重ねること**で実現される。そのため、子どもたちの感情を揺さぶるような題材を通して、次の2つのことを大切にしていきたい。

相手意識をもったコミュニケーション

- 自分の思いを大切に、相手の言語的・文化的背景に寄り添ったかかわりをしていくことにより、互いに心通うかかわりが生まれる。子どもたちは、自分の思いを「伝えよう」としたり、相手の思いを「わかろう」としたりするためには、相手への配慮や粘り強く伝える意志、相手の意図をくみとろうとする意思が大切だと実感するだろう。例えば、話し手としては、「相手に伝わっていなさそうだ」「具体的な説明をした方がよさそうだ」などと考えることが当てはまるだろう。聞き手としては「相手が話しやすいような反応をしよう」「もっと相手の思いを引き出せる質問をしよう」と考えるだろう。このような経験を通して、相手と心通わせるよりよいコミュニケーションのあり方について、仲間と共に考えたり、自分に問い直したりしながら、実践を繰り返していくことを期待する。
- 25
- 30

「思い」を伝え、理解しあう英語表現の追求

- 自分自身の紡ぎだした言葉が「伝わった」と感じたり、相手の思いや考えが「わかった」と感じたりすることは、言語を学ぶ意欲をかきたてる大きなきっかけとなる。このような喜びや達成感に満ちた体験をしながらも、「うまく伝えられなかった」「よくわからなかった」という実感も肯定的にとらえたい。子どもたちにとって、このような実感は「どんな表現なら伝わるのだろう」「相手は何を伝えたかったのだろう」などという思いをうみ、相手とのつながりを求め、英語表現を追求する原動力となるだろう。まずは、自分自身の考えや思いに立ち返って向き合い、自己理解を深めていくことを大切にしたい。そうすることで、子どもたちは表現を吟味し、より言葉の選択にこだわっていくだろう。自身で言葉を紡ぎだしていくことができる子どもたちは、相手の思いに寄り添うために、自らの言葉でかかわりをもったり、自分なりに相手の言葉に込められたメッセージを味わったりするだろう。このような学びを通して、表現の幅を広げ、自ら英語そのものがもつ可能性やおもしろさを見いだしていくことを願っている。
- 35
- 40

これらの学びを通して、自分の思いと相手の思いを重ね合わせながら、幅広い視野や考え方をもって世界や人々とのつながりを豊かにし、それぞれの未来を力強く切り拓いていってほしい。